

優秀演題抄録

16 OT 役に立ちます！ 放課後等デイサービスにおける活用への提案

【演 者】 齋藤 倫明 【所 属】 プルメリア訪問介護株式会社

【共同演者】 松本 洋平（言語聴覚士）、酒井 康年（作業療法士）

【キーワード】（放課後等デイサービス）、作業療法モデル、発達支援

【はじめに】

作業療法士（以下 OT）が放課後等デイサービスなど福祉領域に参入する事が増えている。しかし雇用する側には OT の活用の仕方、OT 側には活用のされ方、共にその認識は不十分であるだろう。筆者は 2016 年 4 月入社以降、OT としての取り組みが認められ、役割を得られ、活用されるまでに至った。その過程を振り返り OT のできる事、すべき事を提案する。

【会社紹介】

2008 年設立、高齢者福祉に加え、2011 年児童デイサービスを開始、2016 年 9 月現在、相談支援センター、放課後等デイサービス：6 事業所、就労支援事業所を展開。OT は事業所運営スタッフとしての役割に加え各事業所巡回を定期的に行っている。

【役割の変遷】

1) OT が認知される段階。OT の視点・手法に基づき子ども達と関わった。それにより子ども達にこれまでに無い位の笑顔や積極性などの変化が現れた。子ども達は OT の訪問を喜び、指導員の中に OT が訪問することへの期待が高まった。2) OT が活用される段階。各事業所から子どもの評価依頼が開始された。また OT による直接支援以外に、指導員ができる具体的な支援方法をモデルとして示す作業も行った。加えて、環境面への提案も行うようにした。3) OT がより広域に活用される段階。事業所の物的環境や人的環境、プログラム編成などの子ども以外の事で相談を受け、評価・アドバイスを行う事が出てきた。

【介入時の意識】

個別作業療法を提供することとは異なる役割があると考え、次のことを意識した。①OT としての専門性を発揮する：子どもが自分から程よいチャレンジを続けられる関わり方や環境を提供する。②依頼者は誰か、主訴は何か、介入の目的は何か：求められている役割が直接介入か間接介入か。依頼ではないが必要があると判断した介入なのか。③フィードバックは簡潔にかつ要点を押さえる：問題となる具体的なエピソードや場面を共有し、その原因、なぜ問題か、具体的な対策、というポイントで話をした。さらにイラストを用いるなど伝わりやすい工夫も行った。分量は、介入目的や OT への理解度によって考慮した。

【考察】

OT を初めて雇用した会社が、OT を活用し、さらに広範囲に活用できたプロセスを振り返ると、OT の専門性が理解されたことによると考えられる。酒井は、福祉領域で求められる OT の専門性、及び地域に出た時の作業療法の対象者は複数いる事、主訴を考える事の重要性を述べている 1)。これを参考に筆者は①～③を意識し、子どもが発達する事を示し、相手に合わせ、主訴への答えを明確にする取り組みを行い、結果を認めてもらえた事が大きかったと考える。今後、新しく雇用する事業所、新たに参入する OT の双方が上記を意識し、段階を踏む事が協業に繋がっていくと考えられる。1) 酒井康年編：発達が気になる子どもを地域で支援！保育・学校生活の作業療法サポートガイド、2016年